

東大阪市第3次地球温暖化対策実行計画（区域施策編）改定に係るパブリックコメントにて寄せられた意見と本市の考え方について

【実施期間】2022（令和4）年12月16日～2023（令和5）年1月16日

【意見の件数】2件 【意見の提出者数】2名

意見 No.	意見	本市の考え方	計画修正の有無
1	<p>温暖化防止施策の中で（P.24）自然エネルギーの活用を導入推進する事は得策だと思う。しかし設置する側（一般家庭・企業）にしても昨今の不景気では伸び悩むと考えられる。</p> <p>そこで補助金を一度受けた人以外（既に設置しており年数経過で取り換える事が必要な人）に補助金を出し促進する必要があると考える。その資金（現在、資金的裏付けがないと思われる）としてゴミ焼却第5工場における熱回収売電料金の一部を充てる。</p> <p>1995年に容リ法が施行され私達はプラの分別を始めた。当初、容リ協の資料よりマテリアルリサイクルが良いと優遇されていたが容リ協が疑問を持ち2007年容リ協「環境負荷検討委員会」をつくりLCA手法による検証で下記（図の横軸参照）のような結果が出た。</p> <div data-bbox="315 783 1039 1362" data-label="Figure"> <p>LCA手法により各リサイクル手法を検証 容リ協「環境負荷検討委員会」2007年公表データによる</p> <p>石炭削減効果 [kg-容リプラkg]</p> <p>二酸化炭素削減効果 [kg-CO2/容リプラkg]</p> <p>＜CO2削減効果＞</p> <p>1位：RPF・セメントメーカー 2位：鉄鋼メーカー 3位：パレットメーカー</p> <p>プラ化 ガス化 ガス化アンモニア 材料RC 油化 ガス化燃料 コーラス RPF・セメント 鉄鋼 パレット</p> <p>プラスチック製容器包装再商品化手法に関する環境負荷等の検討 平成19年6月プラスチック製容器包装再商品化手法に関する環境負荷検討委員会発表 P.115 再商品化による二酸化炭素削減効果と各資源削減効果まとめ図6-16より抜粋(資料2参照)</p> </div>	<p>頂きましたご意見につきましては、今回設定する新たな太陽光発電の導入目標達成に向けた施策や事業を検討していく際の参考とさせていただきます。</p>	<p>修正なし</p>

その結果、1位熱回収（RPF）、2位ケミカルリサイクル、3位マテリアルリサイクルとなった。他市の焼却工場ではなかなかできないが我が東大阪市は熱回収（但しこの場合 RPF でない）効率日本一の焼却工場を持っている。

現在バイオマスと非バイオマスの発電の割合は 50%対 50%であり（資料 1 参照）、水平リサイクル（食品トレー・ペットボトル）以外は焼却し熱回収し、その売電料金（東大阪市分 7 億円）の内 1 億円を補助金に充てれば税金を使わず熱回収分が有効活用でき、かつ、この事により 2030 年までに 42,000KW の目標が達成できる。そして、それがまた、大きな CO2 削減に繋がると思うので提案する。

東大阪都市清掃組合第五工場における総発電量・余剰電力・売電収入と売電先 （資料1）

	総発電量	余剰電力	売電収入	売電先
平成29年度（2017年4月～2018年3月）	9,530万kwh	7,360万kwh	90,000万円	関西電力+関西電力送配電（株）FIT価格
平成30年度（2018年4月～2019年3月）	9,777万kwh	7,592万kwh	89,304万円	関西電力+関西電力送配電（株）FIT価格
令和元年度（2019年4月～2020年3月）	9,221万kwh	7,122万kwh	89,192万円	関西電力+関西電力送配電（株）FIT価格
令和2年度（2020年4月～2021年3月）	9,497万kwh	7,379万kwh	100,461万円	丸紅+関西電力送配電（株）FIT価格
令和3年度（2021年4月～2022年3月）	9,195万kwh	7,060万kwh	87,005万円	丸紅+関西電力送配電（株）FIT価格
令和4年度（2022年4月～2023年3月）				エネット+関西電力送配電（株）FIT価格

関西電力送配電（株）とは関西電力の分社化に向けた分割準備会社より事業承継し2020年4月1日正式分社化されたもの

再生可能エネルギーのFIT価格（固定価格買取制度）は太陽光・風力・地熱・バイオマスの再生可能エネルギー源を用いて発電された電気を国が定める価格で一定期間、電気業者が買い取ることを義務付ける制度である。

特別措置法は2012年7月1日にスタートし課題を踏まえて2017年4月に改正FIT法施行

清掃組合ではバイオマス分（約50%）を関西電力送配電（株）に売電（17円+消費税=18.7円/1kwh）している
非バイオマスはバイオマスに対して1.8倍高い熱量である。

送電線の使用料は買取会社が関西電力送配電（株）に支払う

2016年4月1日より電力の自由化が開始した

意見 No.	意見	本市の考え方	計画修正の有無
2	<p>消費者と環境は切り離せないものです。1960年宇宙飛行士ガガーリンが宇宙から地球を見て「青かった」と発言してから62年今日本の状態は、金色に輝ききれいに見えるそうです。</p> <p>どの位電力を使っているのでしょうか？ 環境悪化を招いているのは、我々一人ひとりの行動が原因だと思います。</p> <p>再エネルギーに期待することも大事ですが、我々のライフスタイルを見直す事。極端に申しますと節電を二分の一迄落とす事迄の努力・覚悟が必要であると思います。</p> <p>家庭・事業所・公共施設等全てが、工夫し、心がける努力をする必要があると思います。「今更みじめなことできるか？」といわれる方もいますが、未来にむけての青い地球を取り戻すために、ライフスタイルの見直しをしていきたいと思います。</p> <p>脱炭素についての意識の低さが「化石賞」を授かることになるのです。環境浄化は、賢い消費者に課せられていると思います。環境浄化に向けて、実行するのは「今、直ぐでしょう」</p>	<p>今回設定する新たな削減目標を達成するためには、ご指摘の通りライフスタイルの見直しをより一層進めていくとともに、市民や事業者、公共施設等、市内の全ての主体が取り組むことが重要と考えますので、頂きましたご意見を参考とさせていただき、啓発等に取り組んでまいります。</p>	修正なし